

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌コンサートホール (Kitara)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	20,728	(千円)
	公 演 事 業	10,960 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,861 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,907 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	＜リニューアルオープン 記念＞Kitaraのバースデー～札幌 with 安永 徹& 市野 あゆみ	令和3月7月4日(日)	コンサートマスター／安永徹 ピアノ／市野あゆみ 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	950
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	953
2	Kitaraのクリスマス	令和3月12月25日 (土)	指揮／原田慶太楼 サクソフォン／上野耕平 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	920
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,646
3	Kitaraのニューイヤー	令和4年1月8日(土)	指揮／齋藤友香理、ソプラノ／富平 安希子、テノール／宮里直樹、管弦 楽／札幌交響楽団	目標値	950
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,013
4	＜Kitara・アクロス福岡 連携事業＞安永 徹&市野 あゆみ～札幌・丸響の室 内楽	令和4年3月17日 (木)※	ヴァイオリン／安永徹、山下大樹 ピアノ／市野あゆみ、ヴィオラ／廣 狩亮、チェロ／石川祐支	目標値	190
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	238

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	リスト音楽院セミナーシリーズ～第24回リスト音楽院セミナー&ハンガリーの俊英たち	令和4年2月22日 (火)～28日(月)※	講師／ガーボル・ファルカシュ※ 通訳／谷本聡子、陣内直 チェロ／ゲルゲイ・デヴィッチ※	目標値	リスト音楽院セミナー受講生／35名、聴講生／46名 コンサート(4公演)、特別レクチャー&公開レッスン／810名
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	受講生／9名、 聴講生／114名、 ライブビューイング特別講義／27名※、 受講生コンサート／68名※
2	オルガンミュージアムへようこそ!	令和4年1月22日 (土)	オルガン／吉村怜子 ナビゲーター／山田美穂	目標値	30名(定員)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	225名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Kitara ファースト・コンサート	令和3年11月29日 (月)～12月1日(水) ※	指揮／マティアス・バーメルト 管弦楽／札幌交響楽団 オルガン／ニコラ・プロカッチーニ	目標値	20,000名 (教員、関係者を含む)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	9,654名 ※
2	専属オルガニストによる 小学校アウトリーチコンサート	令和3年11月9日 (火)※	オルガン・お話／吉村怜子	目標値	3校計約 200名 (実施校との協議の上決定)
		札幌市立西野小学校		実績値	57名※
3	〈北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara 連携事業〉若い芽の音楽会～北国を翔ける新星	令和3年10月16日 (土)	演奏／連携大学より推薦を受けた卒業生・在校生12組31名 司会／八木幸三	目標値	180名 (招待を含む)
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	286名

4	Kitara ランチタイムコンサートシリーズ	令和3年10月30日 (土)～令和4年1月 23日(日)	金管楽器、古楽アンサンブル、筑前 琵琶、ピアノのお話付き公演を全4 公演実施	目標値	1,380名 (小ホール公演平均180名 ×3公演、大ホール公演 840名) (招待を含む)
		札幌コンサートホール 大ホール、小ホール		実績値	1,660名
5	新生！プロジェクト マッピング×オルガン スター・ウォーズ	令和3年8月20日 (金)	オルガン／大木麻理 パーカッション／磯川則子、圓山未 菜	目標値	620名 (招待を含む)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,221名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>札幌コンサートホールは、市民と音楽の喜びを分かち合う、「音楽とともにある街、札幌」をつくる拠点であることをミッションに掲げている。その指針として、①質の高い音楽鑑賞機会の提供、②次世代の演奏家の育成や新たな聴衆の開拓、③子どもたちが音楽と出会い、感性を育む機会の充実、④音楽文化の拠点として地域貢献できるホールの運営、⑤安心・安全で快適な環境の提供、⑥運営の透明性と利用者の声の反映、以上の6つを据えている。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みながら、前述の指針に基づき事業を展開した。出演者は国内アーティストを中心に起用し、国内外で活躍するトップクラスのアーティストをはじめ、地元の音楽団体や若手音楽家への出演機会を創出しながら事業の組み立てを行った。公演時は、来場者・出演者がともに安心して音楽を楽しめるよう、国及び自治体や全国公立文化施設協会のガイドラインに基づいた感染対策を十分に施した。</p> <p>概ね全ての公演において予定通りに進行したが、新型コロナウイルスの影響を受けた事業もあった。特に人材養成事業は、採択された2事業ともに事業形態を変更しての開催となった。感染症対策による入国制限に伴い、海外からアーティストの招へいができなかった「リスト音楽院セミナーシリーズ」（人材養成事業1）では、レッスン方法を対面からオンラインに変更して実施。また、子ども向けのワークショップ形式として開催を予定していた「オルガンミュージアムへようこそ！」（人材養成事業2）は、感染拡大防止の観点から鑑賞形式での開催とした。普及啓発事業1の「Kitara ファースト・コンサート」も予定していた公演の半数が中止となり、来場できなかった小学校には、期間限定でコンサート動画の配信を行った。</p> <p>このように、変更を余儀なくされた事業もあったが、長年にわたり連携関係を築いてきた地元音楽家や教育機関と協力し、代替方法を模索しながら事業実施に導くことができた。この経験で、事業運営に携わる職員の不測の事態への対応力を養い、また、ホール独自のネットワークの重要性を再認識することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>令和3年度の事業は主に国内アーティストで構成し、多彩な音楽ジャンルの公演を実施した。世界でも著名な演奏家や今後の活躍が期待される若手演奏家などをバランスよく起用して、海外アーティストの来日が難しい状況下においても上質な公演を提供することができた。公演は新型コロナウイルスに関連するガイドラインに基づき、ほぼ座席制限を行わず実施したが、座席制限を希望する声は少なく、生の音楽を楽しめることへの期待の声が大きかった。来場者アンケートでは、「コロナ禍でしばらくホールから遠のいていたが、久々に生の音楽に触れ、あまりの美しさに涙が出た」、「芸術、音楽は人らしく生きていく上で欠かせないものだと実感した」など、好意的な声が多く寄せられた。早期にチケットが完売・僅少となる公演もあり、未だ制約の多い生活の中で市民が文化芸術を必要とし、心の豊かさを求めている様子がうかがえた。</p> <p>また、感染症の状況が不安定な中でも、若年層が音楽に触れる機会を継続して創出した。地元の教育機関と密に連携を図り、学びの場を絶やすことなく提供できたことは意義深いと考える。普及啓発事業5をはじめとする、未就学児も入場可能な公演や若年層が低料金で鑑賞できる公演では初来場者が多い傾向にあり、新規聴衆獲得の手応えも感じた。不安定な社会状況においても、助成を得ることで、特に収益性が低い、子どもに係る育成や地元音楽家との事業などに取り組むことができ、自主性のある事業を継続して実現することが可能となっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

(1) 公演事業

公演事業は、世界屈指のホール音響と国内外に広がるネットワークを有効活用し、芸術性と独自性に富んだ公演の鑑賞機会を提供することを目標とした。この目標は概ね達成することができたが、年間を通して新型コロナウイルスの感染状況が不安定であり、入場者数の伸び悩みを実感する公演もあった。

事業番号1は、8か月にわたるホール改修工事後のリニューアルオープンと開館記念日を兼ねた事業として実施した。開館を待ち望む市民は多く、来場者アンケートによる観客満足度は目標を達成した。**事業番号2、3**は、いずれも若手の指揮者とソリストを起用。25歳以下の市民が低価格で鑑賞できる「U25シート」の購入率は目標を上回り、若年層へのアプローチに成功した。長年にわたり協力関係を築くアクロス福岡との連携事業として開催した**事業番号4**は、緊急事態宣言により当初の公演日から延期となったが、当ホールのアソシエイトアーティストの任期中最後となる公演で、往年のファンである友の会会員のチケット購入率が高かった。

(2) 人材養成事業

人材養成事業では、「地域の音楽文化への貢献」、「市民への発表の場の提供と普及」、「音楽で人を育てる人材の養成」の目標に基づき、参加者同士が交流を行う中で研鑽を積み、音楽への興味を伸ばす自発性・自主性を促す事業を計画していた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、今回採択となった2公演はいずれも事業形態の大幅な変更を余儀なくされた。

事業番号1は、ハンガリーから招へい予定であった講師及び出演者の来日がかなわず、関連事業の一部を中止・延期とし、オンラインセミナーを開催した。ハンガリーとの時差や感染症対策を考慮し、受講生の定員を削減したが、コロナ禍においても海外の講師による貴重な学びの場を絶やさず提供することができた。ワークショップ形式での開催を予定していた**事業番号2**は、接触感染や飛沫感染などのリスク回避のため、鑑賞形式に変更した。ホールと出演者とで創意工夫を凝らし公演内容を再検討した。事業担当者及び出演者にとっては子どもたちに音楽の魅力を伝える手法を模索する好機となり、今後のワークショップ事業の活性化に繋がる経験となった。

(3) 普及啓発事業

より多くの市民が音楽に親しめるよう、気軽に足を運べるきっかけを創出する普及啓発事業は、全ての事業において概ね目標を達成することができた。

事業番号1は、感染症拡大に伴い公演の半数が中止となったが、その代替として、鑑賞予定だったプログラムの無観客動画を収録し、音楽教材として対象校へ限定配信した。実施できた公演では約9,600人の小学生たちがプロオーケストラの演奏を会場で体験した。**公演番号2**は、新型コロナの影響により参加希望校が計画よりも少なかったが、公演を希望した1校には直接赴き、楽器と生の音の魅力を届けることができた。満足度は児童・教師ともに90%を超えた。**公演番号3**は、地元音楽大学2校との連携事業。コロナ禍で学びの成果を披露する場が減少する若手演奏家の出演機会を創出し、青少年の音楽活動の活性化に働きかけた。**公演番号4**は、シリーズ全体を通して初来場者が多かった。また、「筑前琵琶で言祝ぐはつ春」はチケットが完売となり、「ワーヘリ ユーフォニアム×テューバの魅力」では、30%超の来場者がU25シート購入者であった。長年の継続により、本シリーズ公演の気軽さが市民に浸透してきていることを実感した。**公演番号5**もチケットは早期に完売となった。当ホールのシンボルであるパイプオルガンを活用した公演は、約60%が初来場者というアンケート結果であった。今後も市民が誰でも気軽に楽しめる公演を企画し、普段ホールに足を運ばない層にも積極的にアプローチを行うことで更なるクラシックファンの獲得に努めたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

(1) 公演事業 (事業費(要望書予算 収入/支出、実績報告書決算 収入/支出)) (単位円)

事業番号1 (3,973,000/7,371,000、3,951,000/7,341,658)

事業番号2 (3,246,000/9,039,000、5,792,000/9,045,592)

事業番号3 (3,292,000/8,619,000、4,035,500/8,242,800)

事業番号4 (747,000/2,889,000、723,500/2,086,836)

国内アーティスト中心に招へいたことにより、海外渡航費の支出を例年よりも大きく削減することができ効率的な支出を行うことができた。広報では、大勢の目を引く場所への広報、CM 広告、SNS を活用した出演者のコメント動画配信、職員のラジオ番組出演(担当者の視点から公演をPR)など新しい取り組みも行い高い効果を発揮した。特に**事業番号2**は、S席、A席のチケットが完売し、入場者数は目標を大きく上回る1,646人を数えた。その他の公演については、要望書の計画通りに費用の執行ができた。

(2) 人材養成事業 (事業費(要望書予算 収入/支出、実績報告書決算 収入/支出)) (単位円)

事業番号1 (2,815,000/9,895,000、223,700/2,641,044)

事業番号2 (15,000/900,000、120,300/1,327,356)

事業番号1は、新型コロナウイルスの影響による入国制限のため、講師や出演者の招へいがかなわず、その分の渡航費や日本での滞在にかかる費用の支出がなかった。また、オンラインを活用したレッスンに変更し、受講生の数を絞るなど規模を大幅に縮小したため、講師への謝礼が予定よりも大幅に減少した。なお、「ハンガリーの俊英たち」は、新型コロナウイルスの影響による入国制限のため、次年度へ延期とした。**事業番号2**は、参加する子供たちの感染リスク回避のため、ワークショップ形式からコンサート形式に変更した。演奏する手元や足元などを大型スクリーンに映しながら公演を実施し、当初計画にはなかった機材費の支出が生じたことにより要望の金額から乖離があった。

(3) 普及啓発事業 (事業費(要望書予算 収入/支出、実績報告書決算 収入/支出)) (単位円)

事業番号1 (24,915,000/28,661,000、22,311,608/21,354,854)

事業番号2 (0/360,000、0/210,400)

事業番号3 (85,000/964,000、144,500/602,203)

事業番号4 (2,297,000/5,051,000、2,728,500/4,745,762)

事業番号5 (1,850,000/5,900,000、2,617,500/6,882,647)

事業番号1は、新型コロナウイルスの影響により5公演は中止。6公演は開催することができ9,588人の児童が参加した。鑑賞できなかった学校にはコンサート動画を作成し、YouTubeで限定公開をした。中止となった公演数は3日間6公演であったが、収録は1日で終了したことから出演料の支出が少なく抑えられた。**事業番号2**は、新型コロナウイルスの影響により公演を希望する学校が1校しかなかったため、支出が少なかった。**事業番号3**は、各大学からの推薦者が計画より少なく出演料の支出が少なかった。**事業番号4**は、幅広い世代が楽しめるバラエティに富んだ4公演を開催し要望書の計画通りに費用の執行ができた。**事業番号5**は、令和元年度に実施し好評を得たオルガンとプロジェクションマッピングのコラボレーション企画を再演した。既存の演出映像を使用予定であったが、演奏曲目の編曲の変更に伴い映像編集が必要となったこと、また、アンコール曲の演出映像を新たに制作することとなったため、経費について要望時から大きく乖離が生じた。企画に関しては大変好評で、事前応募制のバックステージツアーも行いチケットは完売した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 事業の企画立案・実施から振り返り

主催事業の企画立案から実施、振り返りまでを事業課事業系のスタッフが主となり行っている。世界のクラシック音楽シーンを見据えながら、スタッフが日頃から多彩な芸術や人と接し情報収集を行い、全体で共有しながら“チームKitara”にしかできない地域の特性に適した企画の実現を目指し取り組んだ。なお、企画の検討段階においては、各種委員会（企画専門委員会、リスト音楽院セミナー実行委員会）で専門的な助言をいただきながら事業を組み立てており、終了した事業についてはスタッフと各委員会委員との間で振り返りの場を設け次年度へ向けての反省評価を行っている。委員の感想の中に、海外のトップレベルのアーティスト中心だったラインナップは市民に紹介するという意味では良い事業だが、今年度、国内アーティスト中心にスポットを当てた取り組みは、我々も知らないアーティストや、これから注目のアーティストをKitaraから紹介、発信できたことは非常に価値のあることであるとコメントをいただいた。

(2) 札幌のニーズ、Kitaraの強み

世界最高峰の音響を生かし、市民から要望の高い世界トップクラスのオーケストラや室内楽、ソリストのコンサートを実施している。令和3年度は新型コロナウイルスの影響による渡航制限のため、国外からのオーケストラの招へいについては見合わせたが、海外でも評価が高いアーティストによる一流の音楽にふれる機会を提供することにより、より豊かで創造的な市民の暮らしと街づくりに貢献することができた。

(3) 採択事業における専属・連携団体・連携施設の存在

ホールが独自に築くネットワーク（地元プロオーケストラ、他地域の連携館など）の活用により、地域間の交流から生まれる特色ある事業を実施した。

令和3年度採択事業の専属・連携団体・連携施設は以下の通り。

●公演事業

- ・札幌コンサートホールアソシエイト・アーティストの出演：事業番号1、4
- ・地元プロ・オーケストラ（札幌交響楽団）の出演：事業番号2、3
- ・「コンサートホール企画連絡会議」のネットワークの活用（アクロス福岡との連携事業）：事業番号4

●人材養成事業

- ・海外の高等教育機関・音楽祭事務局、地元音楽大学との提携によるセミナー事業：事業番号1
- ・地元音楽家を活用した音楽教育活動：事業番号2

●普及啓発事業

- ・地元教育機関（市内、近郊の小学校）との連携、地元プロ・オーケストラやホール専属オルガニストの参画を促した普及プログラムの実施：事業番号1
- ・地元教育機関（市内小学校）との連携、地元音楽家を活用した普及プログラムの実施：事業番号2
- ・市内音楽大学との連携：事業番号3
- ・地元教育機関との連携（筑前琵琶公演～地元大学教授によるトーク）、「コンサートホール企画連絡会議」のネットワークの活用（ワーヘリ公演～アクロス福岡との連携事業）：事業番号4
- ・他ホールとの連携（ザ・シンフォニーホールとの連携事業）：事業番号5

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

（４）実施事業の企画内容、芸術性について

●公演事業

事業番号 1は、北海道在住の世界的演奏家である安永徹、市野あゆみと札幌交響楽団の演奏で、モーツァルトの名曲を中心としたプログラムを披露した。札幌市民に身近にある音楽ホールや地元を拠点に活躍する音楽家の素晴らしさを再認識し、リニューアルオープンを待ち望んでいた大勢のお客様とともに開館記念を祝うことができた。**事業番号 2**は、プログラムや演出にも工夫をし、日本初演曲も取り上げ素晴らしい作品を市民に紹介することができた。また、ジャズなども取り上げ、若い客、家族連れなど普段足を運ばない客層や、毎年楽しみにしているリピーターにも楽しんでいただいた。**事業番号 3**は、ニューイヤーの定番曲やドラマティックな管弦楽曲だけではなく、コミカルな喜歌劇の名場面なども集め、明るくにぎやかな新年の始まりを楽しめる演奏会構成とした。オペラを含めたクラシック音楽愛好者の増加につながるきっかけを作ることができた。**事業番号 4**は、「Kitara のバースデー」にも出演した安永徹と市野あゆみを中心に、札幌交響楽団・九州交響楽団の首席奏者で構成された緻密な室内楽で市民を魅了し、独創的なプログラムを市民に提供することができた。

●人材育成事業

事業番号 1は、レッスンがオンラインであっても、海外の講師から直接レッスンを受けられる貴重な機会となった。コロナ禍においても、ピアノを学ぶ多くの学生に、刺激ある学びの機会を提供することができた。また、ライブビューイング特別講義などオンラインならではの企画も実施することができた。**事業番号 2**は、オルガンによる美術館をコンセプトにオルガン演奏だけではなく、トークやスクリーンを使って映像投影を行いながら、初めてオルガンにふれる子どもたちへ分かりやすく楽器の魅力を解説した。

●普及啓発事業

事業番号 1は、学校の授業と連動させる工夫、作品解説、楽器紹介、団員へのインタビューなど、コンサートの中にさまざまな要素を入れ、はじめての「音楽会体験」を楽しめるよう趣向を凝らした。世界的に高い評価を得る札幌の音楽の殿堂である Kitara で生の演奏を体感する機会を提供することにより、次世代の音楽愛好家の育成と地域の音楽文化の発展に寄与することができた。**事業番号 2**は、オルガン演奏だけではなくオルガンの構造や歴史などのお話も交えることでより子どもの興味関心を高められるように工夫し、ポジティブオルガンの生の音色を楽しんでもらうことができた。また、オルガンと児童のリコーダーでの合奏を通して、子どもたちが演奏の楽しさを実感する機会となった。**事業番号 3**は、楽器や編成のバリエーションを考え、飽きさせないプログラム構成を意識した。これまでに多くの若手演奏家を市民で紹介してきたが、卒業生の中にはプロとして活躍する音楽家も出ており、次世代の演奏家育成の一助となっている。**事業番号 4**は、ホールの音楽特性を生かした独自の企画で、多様な音楽の魅力に気軽に触れることができる公演となった。レストランとのタイアップなどの新しい取り組みや小中学校へのチラシ配布の効果もあり、幅広い客層に足を運んでもらうことができた。**事業番号 5**は、新たな編曲により聴きやすくより親しみやすい音楽を伝えることができた。前回公演よりも照明の数を増やし、照度を上げるなど更に充実させ豪華な演出ができた。ステージ上には多種多様な打楽器を配置しより臨場感と演奏効果を高めた。5歳以上入場可能とし、家族連れや、若い来場者、初めて足を運んだ来場者も含め大勢のお客様で賑わった。当日は、事前応募制のバックステージツアーを行い、普段見ることができないステージの裏側や機材の見学等、参加者にとって貴重な経験となった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(1) 人材における持続性について（ホール職員）

ホール職員の投稿によるリアルタイムでの Twitter、Instagram など SNS を活用した広報、演奏家へのインタビュー動画の制作（撮影、編集、公開）、チラシ、ポスターのビジュアル検討から新聞広告、CM 広告の時期、効果的な PR 場所の選定など広報戦略も含めて職員全員で行った。また、新たな試みとして FM ラジオではホールの番組枠を設けていただき、各公演の担当職員が出演。アナウンサーとの掛け合いで施設やコンサートの聴きどころ見どころなどの PR を行い、企画担当者の視点から公演の魅力を紹介した。その結果が、集客増、売上増にも繋がりが、来場者からのアンケートではあたたかいメッセージを多くいただくことで、ホール職員の士気も上がった。完売公演や満席近い公演が例年よりも多く、確実に効果があらわれており、この状況を今後も持続的に発展させていきたい。

(2) サポーターにおける持続性について（KitaraClub 会員、無料アプリ会員、Kitara ボランティア）

KitaraClub の会員数は、高齢化やコロナの影響などもあり、年々減少傾向にあるが、一方でホール主催公演に出演する演奏家を目当てに新規入会する方もおり、ホールの企画内容が新たな入会者獲得に効果を上げた。ニーズに合わせた演奏家の人選と魅力ある公演を続けていくことで、会員離れに歯止めをかけ、会員増並びに継続して更新をしていただくよう引き続き努力をしていきたい。なお、今年度から有料会員組織のほかに無料アプリ会員の募集を開始。携帯電話で簡単に登録することができ、Kitara の最新情報や特典もあることから、若年層の入会者も増え、新たな客層の開拓に繋がった。KitaraClub と合わせて情報を発信していきたい。また、Kirara ボランティアは、**普及啓発事業 5 「プロジェクションマッピング」** 公演では、バックステージツアーの誘導とホールについての説明を担当いただいているほか、当ホールの様々な事業に対しご協力をいただいております。ホールにとっても重要な役割を担っている。ホールを運営するうえでは欠かせない存在であることから、引き続き、互いに連携して進めていきたい。

(3) 他施設、地元の団体・教育機関との連携における持続性について

公演事業 4 と普及啓発事業 4 「ワーヘリ」 公演は、全国の 2000 席規模の 6 箇所公共ホールで組織するコンサートホール企画連絡会議の中のアクロス福岡との共同制作、共同での招聘で実現した公演である。両公演は、札幌と福岡の二つの会場で開催し、ホール間、演奏者間の交流とネットワークの構築に繋がっている。令和 4 年度についてもコンサートホール企画連絡会議との企画を予定しており、協力し合いながら芸術性豊かな質の高い公演を続けていきたい。他にも**人材育成事業 1**は、世界的な音楽教育機関であるリスト音楽院の教授によるセミナーと演奏会を行い、今回で 24 回を迎える。リスト音楽院との長きに渡り築きあげてきた信頼のもと、セミナーの歴史と伝統を継承し、次年度以降は通常形式の対面のセミナーで実施できるよう進めていきたい。

(4) 経営における持続性について（財源の確保）

ホールの環境整備とさらなるサービス向上を目指しながらホールの稼働率を上げ、貸館収入を増やす経営努力も継続して行っていきたい。また、日頃から職員が情報収集とニーズの把握を行いながら魅力ある事業を展開し、集客増とチケット収入増を目標としていきたい。あわせて指定管理費、「Kitara ファースト・コンサート」への札幌市補助金の確保、ホールを支えるスポンサー協賛金の継続的な獲得や助成金の獲得に向けた財源の確保に努めていきたい。継続して開催している事業については、必要経費の見直しを随時細かくチェックすることで、支出の削減にも努める。